

グローバル化時代におけるアジアの教育戦略
——日本・中国・カタールにおける IB の実態を手掛かりに
研究報告書

李 霞 中島悠介

平成 26 年 8 月

はじめに

グローバル化があらゆる分野で急速に進む今日、ヒト、モノ、カネは国を超えてより一層流動化し、世界における経済的な結びつきの深まりをはじめ、国と国との繋がりも一層緊密に結ばれることとなっている。その一方で、疫病の世界的流行、地球全体の環境問題、さらに紛争への世界的関与、労働環境の悪化など、人類の生存に大きな脅威をもたらす不安定要素も増えつつある。人類の生存に脅威をもたらすこれらの問題を克服し、かつ総合的な国力の競争を勝ち抜くために、世界諸国はグローバルな視野、幅広い知識と柔軟な思考力を持ち、自ら省察し、判断する能力を持つグローバル人材の育成を重要な課題と位置づけるようになった。また、このような能力を持つグローバル人材を育成するために、世界で通用する大学入学資格を取得するための教育プログラム、「国際バカロレア (International Baccalaureate, 以下「IB」)」が、有効な手段と認識され、世界中でにわかに注目されることとなった。1970年代から2014年2月末の現在まで、世界における国際バカロレア認定校の設置は当初の7校から、今日の3718校まで急増してきたこともその重要度を語る一つの証拠といえよう。

IB認定校の設置を巡って、とりわけ近年、アジア太平洋地域での活発的な動きが目立つ。この地域は、政治、文化、価値信仰、経済体制が多様であり、また、西欧生まれの国際バカロレアと異なる文化的背景を持つ地域でもある。にもかかわらず、現在この地域では日本、シンガポール、中国、インド、ベトナム、マレーシア、カタールなど延べ27各国の400校余りの認定校が国際バカロレアのプログラムを普及するための拠点となっている。

IBとは、非営利の教育機関である国際バカロレア機構 (IBO) が主導している、国家の枠を超えて世界で認められている大学入学資格とそのカリキュラムのことであり、思考力や表現力、異文化理解や寛容性、責任感などを涵養することを目的としていることに特色がある。このようなIBに関する研究は主に欧米諸国を中心に展開されてきたが、アジア諸国におけるIBの適用動向に関する研究はこれまで蓄積されてきたとはいえない。特に、文化圏の異なる社会において、どのような背景からIBが導入され、展開されているのかを明らかにすることは、社会におけるグローバル化への教育の対応のあり方を議論する上で示唆が得られると考えられる。以上の問題関心から、本研究は、アジア諸国にお

ける国際バカロレア (International Baccalaureate、以下 IB) の導入の動向を、中国・カタールをの事例から明らかにすることを目的する。また、IB のプログラムと卒業資格は初等教育から後期中等教育までの段階に対応しているが、本研究では後期中等教育段階にあたる DP (Diploma Program) を対象とする。

1.国際バカロレアとは何か？

1-1. 国際バカロレア機構

国際バカロレア機構 (International Baccalaureate Organization, IBO) は、インターナショナルスクール等の卒業生に、国際的に認められる大学進学への資格を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、異なる文化の理解と尊重を通じ、より望ましくかつ平和な世界を作りだすことに貢献しうる探究心、知性、そして寛容的精神のある若者を育てることを目的に、1968年にスイスの教育財団によって設立された国際教育の推進を目的とする非営利教育団体である。本部はスイスのジュネーブにあり、IB 認定校に対する共通カリキュラムの作成や国際バカロレア試験の実施及び国際バカロレア資格の授与、さらに、IB 認定校の教員を対象とする研修を行うことなどが主な業務としている。

国際バカロレア (International Baccalaureate) は IB と略され、国際バカロレア機構即ち、IBO が定める教育プログラム、資格の総称である。

1-2. 国際バカロレアの理念と学習者像

先述したように、国際バカロレアは、異なる文化の理解と尊重を通じ、より望ましくかつ平和な世界を作りだすことに貢献しうる探究心、知性、そして寛容的精神のある若者を育てることを目的としている。これは、国際バカロレアの教育理念そのものである。また、国際バカロレアの目指している育成すべき学習者像には以下の 10 の目標が含まれる。

国際バカロレアの目指す学習者像

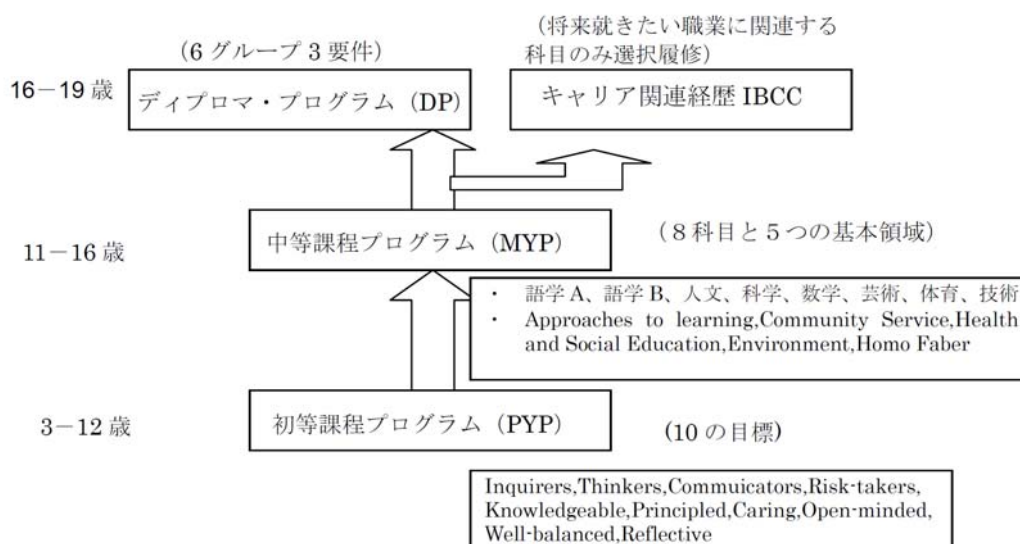
Inquirers	探究する人
Thinkers	考える人
Communicators	コミュニケーションができる人
Risk-takers	挑戦する人
Knowledgeable	知識のある人
Principled	信念を持つ人
Caring	思いやりのある人
Open-minded	心を開く人
Well-balanced	バランスの取れた人
Reflective	振り返りができる人

このような理念を実現するために、国際バカロレア機構は、学校、政府、国際機関と協力しながら、高度な国際教育プログラム及び厳格な評価システムを開発してきた。

1-3. 国際バカロレアのプログラム

国際バカロレアには、3歳～19歳の子どもの年齢に応じて4つのプログラムが設定されている。

- (1) PYP (Primary Years Programme : 初等教育プログラム)
3歳～12歳
- (2) MYP (Middle Years Programme : 中等教育プログラム)
11歳～16歳
- (3) DP (Diploma Programme : ディプロマ資格プログラム)
16歳～19歳
- (4) IBCC(the IB Career-related Certificate : キャリア関連経歴)16歳～19歳の生徒を対象に開設した、将来就きたい職業に関連する科目のみ選択履修するプログラムである。

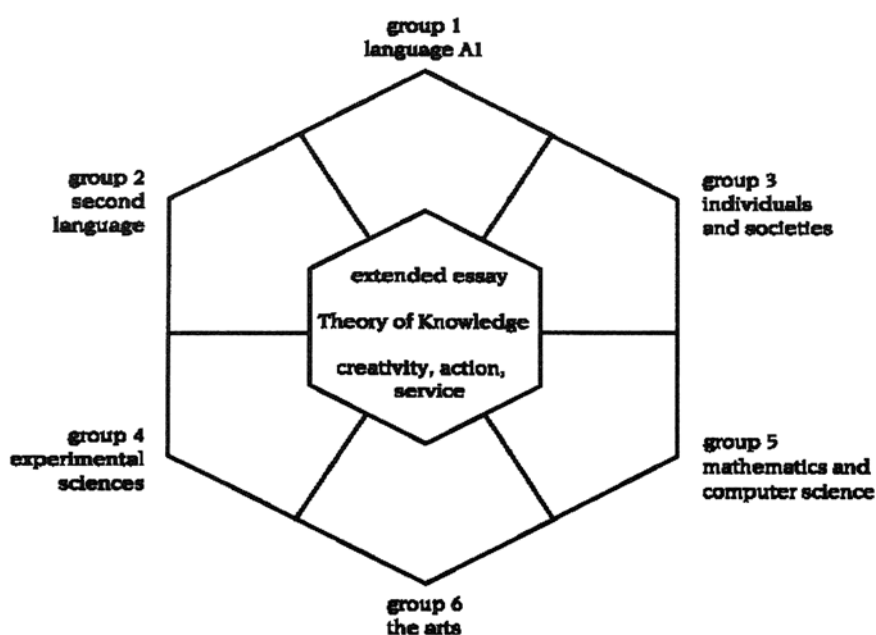


相良憲昭・岩崎久美子『国際バカロレア-世界が認める卓越した教育プログラム』明石書店、2007年、p. 21を参照し、筆者が作成。

以上の4つのプログラムの中において、DPがとりわけ注目される対象となる。その理由はDPの課程を修了し、ディプロマ資格取得のための統一試験に合格することで、国際バカロレア資格を取得することができるためである。国際バカロレア資格は、国際的に認められている大学入学資格の1つであり、現在、多くの国では国際バカロレアの卒業資格を持つ者に対して、大学入学に関し高等学校を卒業したものと同等以上の学力があると認められている。そのためか、現在、DPを中心にIB認定校を設置する動向が見られる。

1-4. DP のカリキュラムの構造及び資格取得の要件

ディプロマ・プログラムのカリキュラムは第一言語、第二言語、個人と社会、実験科学、数学と情報処理学、芸術の6つの科目グループで構成されており、それは以下のような六角形で表される。



相良憲昭・岩崎久美子『国際バカロレア-世界が認める卓越した教育プログラム』明石書店、2007年、p. 23。

六角形の中心部分は、「知識の理論 (TOK)」、「創造性・活動・奉仕(CAS)」、「課題論文 (EE)」の3要件で構成されている。

TOK (Theory of Knowledge) : 知識の理論

学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を検討し理性と客観的精神を養うことを重視する。知識の理論と講義と演習を2年間に渡り100時間以上学習し、小論文と発表作品の提出が求められる。

CAS (Creativity, Action, Service) : 創造性・活動・奉仕

学問以外の生活、地域に根差した奉仕活動による体験や共同作業による協調性の重要性を重視し、2年間にわたり、芸術・音楽・演劇などの創造的活動、スポーツ活動、奉仕活動をそれぞれ最低50時間ずつ、合計150時間以上がDP取得に必須となっている。

EE (Extended Essay) : 課題論文

生徒が6科目の中から興味を持っている1つの科目に関連する研究課題を決め、自分で調査し、その結果を英文4000語以内の学術論文にまとめることで、大学レベルで必要とされている、個人研究のスキルやライティング技術に習熟するようになる。生徒はスーパーバイザーとして担当教師を選び、その指導のもと、主に11年生の春から夏の間、最低40時間かけて論文を仕上げることが求められる。

IBディプロマ資格の取得を希望する生徒は、6つの科目グループそれぞれから1つずつの科目を履修しなければならない。これらの6つの科目のうち、3～4科目は上級レベル(HL)で、残りの2～3科目は標準レベル(SL)で履修することが必要である。上級レベルは1科目あたり240時間の履修が必要で、2年間で修了する。標準レベルは150時間の履修が必要とされている。

1-5. 評価システム

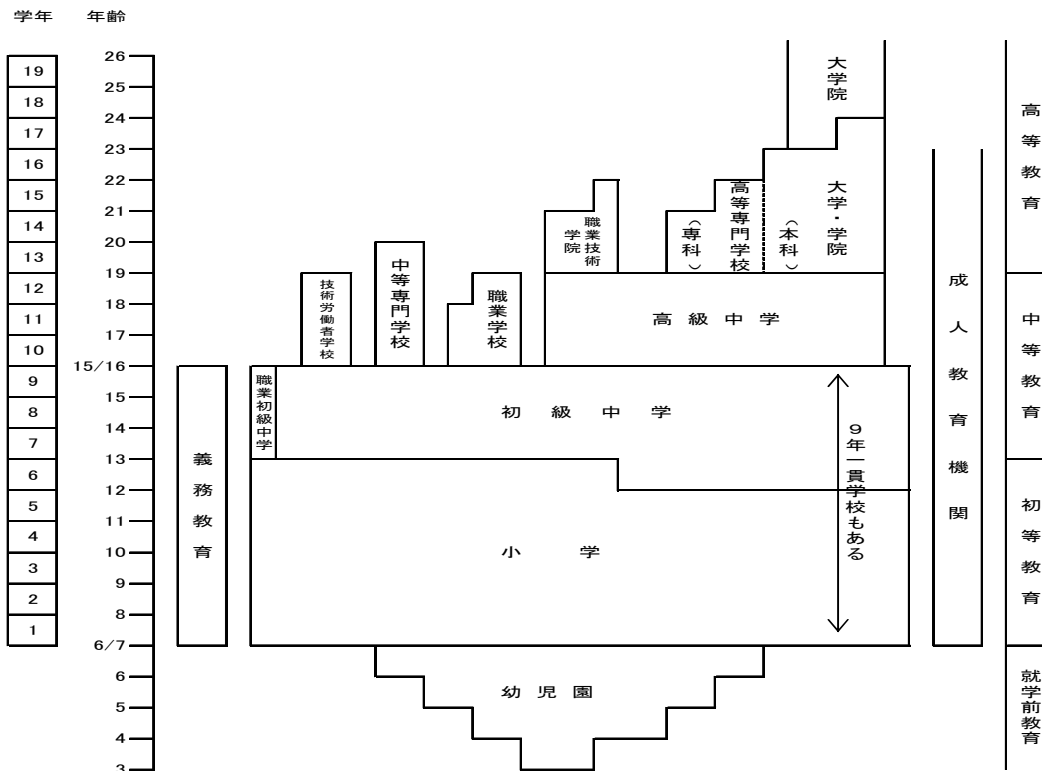
各教科目に対する評価は「Excellent(7点)・Very good(6点)・Good(5点)・Satisfactory(4点)・Mediocre(3点)・Poor(2点)・Very poor(1点)」の「7段階評価」となっている。6科目それぞれで科目合格点である4点を取得し、その上「TOK」、「CAS」、「EE」を充たしていればDPを取得する最低合格ラインをクリアすることができる。6科目すべて最高点をとった場合は42点となる。

さらに、「EE」と「TOK」の成果が優秀な場合、3点追加され合計45点満点となる。

6科目のうち、1教科でも不合格ならばディプロマは授与されない。また、点数が24～27の間の生徒ではHL科目の総合点が12点以上（4科目では16点）でSLの科目の総合点が9点以上でなければならない（HLを4科目選んだ場合は6点）。28点以上の生徒はHL科目の総合点が11点以上（4科目では14点）でSLの科目の総合点が8点以上でなければならない（HLを4科目選んだ場合は5点）。

2. 中国における教育状況

中国の普通学校段階は、小学（日本の小学校に相当）、初級中学（日本の中学校に相当）、高級中学校（日本の高等学校に相当）、大学へと続いており、基本的に日本のような6－3－3－4制となっている。ただし、地域によって、小学と初級中学において5－4制を実施する場合も一部見られる。中国における現行の学校教育体系を示す図は以下のようになっている。



出典：楠山研『現代中国初中等教育の多様化と制度改革』東信堂、2010年、P57

小学校の入学年齢については、法規上では6歳入学と定められているが、7歳入学を実施しているところも多く存在している。また、小学校6年間と初級中学校3年間の合わせた9年間が義務教育を実施する期間とされている。

2012年版中国教育年鑑によると、2012年には中国における小学校での就学率は99.9%に達しており、中学校や高校への進学率はそれぞれ98.3%と88.4%となっている。また、高等教育機関への進学率も87%と高い数値を示している。これらの数値から、現在、中国においては、義務教育が普及されていることや「大学全入」時代を迎えようとしていることがわかる。

3. 中国における国際バカロレアの現状

中国については、1991年に最初のIB認定校が誕生してから、今日まで、IB認定校は76校（2014年2月末まで）まで増えた。この76校の地域分布の詳細は以下の表で示した通りになっている。

表 3-2-1. 中国におけるIB認定校の分布状況

上海	北京	広東	四川	天津	江蘇	浙江	福建	厦門	河南	湖北	吉林
26校	14校	10校	3校	3校	11校	3校	1校	1校	1校	1校	2校

以上の表から、中国におけるIB認定校の分布は主に、上海、北京、広東といった中国の経済発達している沿海地域に集中している一方で、中国の内陸部ではわずか5校にとどまり、さらに、経済発展の遅れている西部地域にはIB認定校が設置されていないことが分かる。

これら76校のIB認定校のうち、PYP、MYP、DPのどれか一つのプログラムを導入している学校もあれば、複数のプログラムを設置している学校もある。1991年から2012年までプログラム別IB認定校の設置状況は以下の図のようになっている。

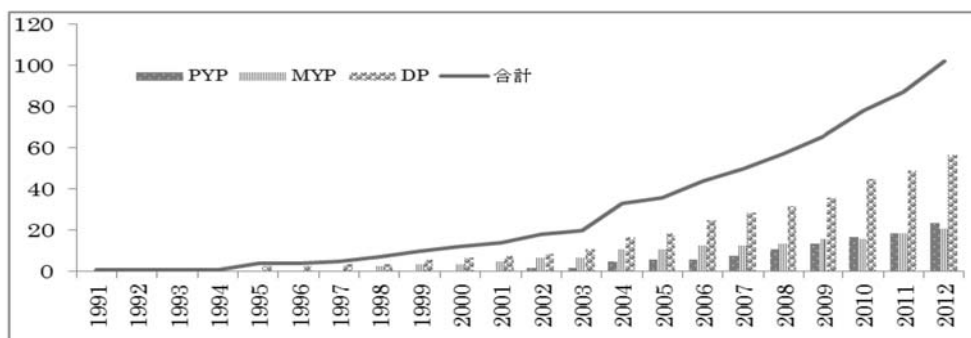


図 3-2-1 課程別 IB の導入校数とその合計

出典：黄丹青「中国における国際バカロレア導入の概況及びその背景について」『国立教育政策研究所紀要』第 142 集、p. 155。

以上の図から、1991 年に IB 認定校が最初に中国で誕生したが、2000 年までにはその増加は非常に緩やかであったことが見てとれる。しかし、2000 年以降、IB 認定校が急激に増加する傾向が目立ち、その中でも DP プログラムの増加が著しいものであることも明らかである。

4. 中国における IB 認定校の実態

現在、中国における国際バカロレア導入の実態を探るため、本報告書では、北京汇佳国际学校及び中国人民大学附属高校を事例に見ていく。

4-1. 汇佳国际学校の運営実態



学校紹介

中国における私立学校のリーダーと称される汇佳国際学校は、北京市北西部の昌平区に位置する 11.3 万平方メートルという広いキャンパスを持ち、現在、児童生徒約 2500 名（外国籍児童生徒は僅か 100 名あまり）、教職員（中国籍及び外国籍）500 人以上を抱える中国大陸における最も規模の大きい IB 認定校であり、中国籍の生徒の受け入れが可能となった最初の IB 認定校でもある。

当校の前身は 1993 年 7 月に 16 人の教職員と 36 名の児童を抱え、私立小学校としてスタートを切った私立汇佳小学校である。1995 年に汇佳は高等学校を開設し、その翌年の 1996 年にさらに中学校を開設した。これによって、小、中、高を揃えた汇佳の独立した私立学校体系が築かれた。また 1999 年には最初の幼稚園を開設させ、続いて 2003 年に汇佳職業学院を成立させることで、就学前教育から、高等教育まですべての教育段階を含む独立した教育機構へと成長した。

汇佳は中国国内で自らの教育活動を展開することに留まらず、積極的に海外の先進的な教育資源を導入し、海外での機構の拡大にも力を注いできた。

まず、海外の先進的な教育資源の導入については、



<http://www.huijia2000.com/>

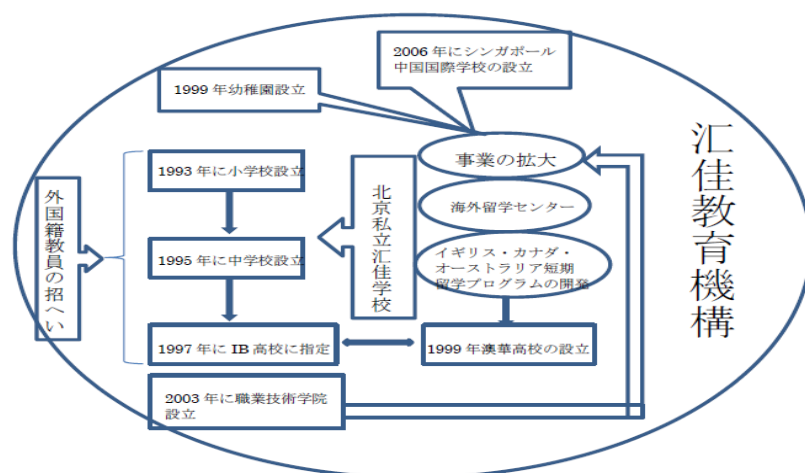
1994 年に成立したばかりの私立汇佳小学校において初の外国籍の講師を迎えることとなった。それを皮きりに海外の教育機構との連携を一層強め、1995 年にアメリカカリフォルニア州ブランフォード小学校と姉妹校関係を締結し、それをきっかけにロサンゼルスに海外留学センターを設立した。この海外留学センターを拠点に以来 18 年間に渡って汇佳に在籍する小学生をアメリカへ派遣する留学事業を続けてきた。1997 年に汇佳は IBO に加盟するための申請を提出し、同年 10 月に IB の DP プログラムの導入が認定され、1998 年に最初の DP コースの生徒の募集を開始した。中国国内に高まっている海外留学に対する需要に応えることに加え、IB のプログラムの導入以外に、新たな海外留学のルートを拓くために、同じく 1998 年にオーストラリアの投資ファンドと連携し、翌 1999 年には北京で澳华高校を設立し、海外の高等教育機関へ卒業生を送る事業の拡大を図った。中国国内での教育事業の発展に留まることなく、2006 年にシンガ

ポールにおいて中国国際学校を成立させ、就学前教育から高等教育までの教育サービスを海外での提供を始めた。

さらに、2002年 IBO の認定を受け、PYP、MYP プログラムを導入することが実現した。これによって、IBO のすべてのプログラムによる教育サービスが提供可能な大規模な私立教育機関となった。

汇佳教育機構の構成について以下の図で示しておく。

図 4-1-1. 汇佳教育機構の構成図



汇佳国際学校の年表を参考に筆者作成

教育理念・方針

当校は児童生徒を「偉大な中国人（做一个伟大的中国人）」に育てることを目標としている。この「偉大な中国人」とは極端な民族主義者を意味するのではなく、「祖国を思う心を持ち、世界に貢献できる人間（怀祖国心，做世界人）」という意味合いも込められている。

当校の掲げている教育理念は「新型 高品位 国際化」と8文字でまとめられる。

まず、新型とは、当校で行う教育は完全に教育の規律に従うこと、また、従来の試験に応じるために行う教育に対する革新を意味するものである。次に、高品位とは教育のハイクオリティー、高水準、高い効率を意味することであり、また児童生徒に深い愛情で接すること、彼らにハイレベルの教育的サービスを提供することを以て

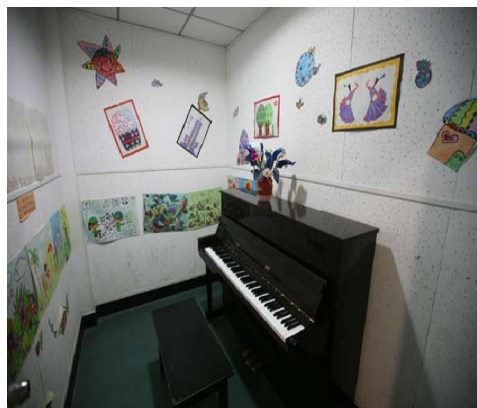


学校の特色を全面に打ち出すことをも意味している。さらに、国際化とは、世界に開かれた高い国際水準を持つという意味合いを示している。

汇佳国際学校の教育方針は「三自」、「四会」、「五有」と概括できる。

この「三自」とは、自尊、自律、自強であることを意味しており、独立した自律的な人間になるよう、学校の教育活動においては児童生徒に良好な生活、学習習慣の養成に重点が置かれている。

「四会」とは即ち、ピアノ、水泳、英語、コンピューターを習得することを意味しており、「四会」を確実に習得させるために、中国語以外の科目において英語で授業を実施することに徹することに加え、個人練習用のピアノ室が充実していることや、プール、コンピューター室も整備されている。そして「五有」とは、マナー、科学的頭脳、健全な心身、芸術的修養、社会に奉仕する精神を有することを意味している。



<http://www.huijia2000.com/sc/about/gallery>

カリキュラムの構成及び履修

当校は PYP、MYP、DP という IBO の定めている三つの重要なプログラムが導入されている。しかし、プログラムによって、カリキュラムの構成が異なっている。

まず、PYP と MYP については、教育内容は基本的に中国の国定教学計画に従い、IB の教育理念と方法をそれに加味する形をとっている。他方、DP については、そのカリキュラムの構成は完全に IBO の定められた TOK・CAS・EE の三つの活動領域の六つの探究教科群に従うこととなっている。現在、当校の DP プログラムにおいて、语言 A（中文）、语言 B（英語）、历史、哲学、经济、商业管理、物理、化学、生物、数学の 11 の教科目が開設されている。これらの 11 教科目の六つの探究教科群における位置づけは以下の

6 Subject Groups / 六つの探究教科群	
Group 1	Language A1 第一言語 文学 言語A(中国語)
Group 2	Second Language 第二言語 言語と文学 言語B(英語)
Group 3	Individuals and Societies 歴史・哲学・経済・商業管理
Group 4	Experimental Sciences 物理・化学・生物
Group 5	Mathematics and Computer Science 数学
Group 6	The Arts ダイア芸術(美術・音楽・演劇)

表通りに示されている。

カリキュラムの履修については、生徒は上記の6つのグループから1科目ずつ選択し、合計6科目について試験を受けることが必要となる。ただし、グループ1からグループ5までの教科群から第二学科を一つ選択し履修することでグループ6の1教科の履修を代替することが可能となっている。また、選択した科目のうち、ハイレベル（HL）を3教科、残りの教科の履修においては標準レベル（SL）に達しなければならない。さらに、HL教科の教学時間数は3年間で240時間とし、SL教科の教学時間数は3年間で150時間とする。また、Language1以外、すべての教科目において、英語が授業言語となっている。

試験については、グループ1とグループ2の教科は選択した言語で試験を受けるほか、すべての科目の試験において、英語での受験となっている。そして、小論文については、自分で決めたテーマについて研究分析し、独自性や創造性を加えながら中国語で4800字、英語で4000ワード程度で完成させることが求められている。

なお、各教科の教科書については、IBOの紹介している書物から、各教科の担当教員が自主的に選択することとなっている。

また、当校のもっともユニークな教育活動として、PYPからDPまでのすべての学段の児童生徒に馬術とゴルフの授業を開講していることがあげられる。

汇佳で国際教育交流活動が充実していることは、この学校がより一層その魅力を多くの児童生徒に感じさせる要素である。現在、アメリカ、オーストラリア、シンガポールのほかに、汇佳は多くの国の多くの教育機関との間に密接な交流活動が展開されていることが以下の表からうかがえる。

汇佳教育機構の国際交流状況			
北京私立 汇佳学校	小学校	四年生	シンガポール中国国際学校へ1か月間留学
			ドイツにある友好交流校へ15日間キャンパス体験
		五年生	海外留学センター(アメリカ)へ派遣し、友好校の Glendale Adventist Elementary and Junior High School とCrescenta Valley Adventist School にて10か月間留学
			英語特訓のためオーストラリアへ2.5ヶ月間短期留学
		六年生	10日間ケニア見学
			9日間北欧への歴史文化の旅
	中学校	一年生	日本筑波大学附属中学校へキャンパス見学
			アメリカSantiago軍事学校にて1か月間短期留学
		二年生	埃及・トルコ冬季キャンパス7日間
			オーストラリアへ冬季キャンパス7日間
	三年生	オーストラリアのUniversity of West Australia にて2か月間英語特訓 一部分の生徒がChrist Church Grammar School/Presbyterian Ladies Collegeへ短期留学 アメリカへ冬季キャンパス12日間	
	IB高校	一・二年生	アメリカへ渡航し、12日間にわたって英語特訓、文化と歴史遺跡の見学
日本へ渡航し、日中小大使交流活動に参加			
澳華高校	一・二年生	オーストラリアのUniversity of West Australia にて2か月間英語特訓	
		アメリカへ渡航し、12日間にわたって英語特訓、文化と歴史遺跡の見学	
汇佳 職業 技術 学院	コンピューター学科		インド国家情報学院と連携してコンピューターの応用に関連するカリキュラムの開発と設置
	スポーツ学科		ドイツISTスポーツレジャー観光学院と連携してゴルフ専攻を開設

其の他

当校は PYP、MYP、DP の三つのプログラムを問わず、一律に一日の流れは 8 コマの授業及びクラブ活動で構成されている。なお、一コマ 40 分間で、二コマごとに休憩時間を設けている。

優秀な外国籍教員を確保するために毎年、人事担当者や学校の管理職は直接海外へ渡航し、海外での教員募集活動を行っている。また、現在 500 名あまりの教職員のうち、DP プログラムに所属している教員は 100 名ぐらいあり、その中でも外国籍教師は 65% を占めている。DP プログラムに所属している教員のうち博士学位を持つ者 8 名、修士学位を持つ者 52 名、IB 試験官 8 名となっている。そして、すべての教師は IB の主催する専門の研修に参加した経験を持つという。

外国籍教員が担当する科目は以下の図の通りとなっている。

図. 汇佳学校における外国人教員の担当科目



王志澤、錢麗霞「汇佳教育国際化進程与啓示」『世界教育信息』2012 年第 2 期、p. 72.

また、現在、在籍中の児童生徒の全 2500 名のうち、外国籍を有するものは僅か 100 名あまり、つまり、中国国籍を有するものがほとんどである。なお、当校の DP コース（高一～高三）に 700 人余り在籍しており、高校三年生だけでも、10 クラスの 250 人の生徒が在籍している。

IBO の定めている DP プログラムの実施時間の二年間と異なり、当校では、DP を三年間に渡って実施することとなっている。また、DP の開講は希望者 15 人以上という条件がつけられている。

汇佳の DP コースに入るためには、中国全国で行われる高校入試成績が重要である。高校入試科目全体 570 点満点のうち 500 点以上を取得することが求められる。500 点をクリアした応募者に、当校で独自に実施する面接及び筆記試験もクリアしなければならない。

1998 年に最初の DP プログラムの受講生を募集して以来、2013 年 10 月訪問時まで、約 1500 名の卒業生を生み出し、これらの卒業生全員は海外大学へ進学し、卒業生のうち 90%はアメリカの大学へ進学、残り 10%はカナダ、イギリス、オーストラリア、スウェーデン、香港などの大学へ進学するという。

ただし、海外大学へ進学する際に、DP の資格だけではなく、生徒の TOEFL の成績も求められている。なお、DP の資格は中国の高校を卒業する資格として認められるが、中国国内の大学への進学資格としては認められていない。

汇佳は現在、DP プログラムの受講生に年間 15 万元（約 270 万円）の授業料を徴収している。それと同時に、受講生を対象に、「卓越奨学金制度」も設けており、奨学金の額は成績によって、四つのレベルに分けられている。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| • 高校進学テスト \geq 550 点 | 24 万元(46 万円)/3 年間 |
| • 高校進学テスト 540 点—549 点 | 9 万元/3 年間 |
| • 高校進学テスト 530 点—539 点 | 6 万元/3 年間 |
| • 高校進学テスト 520 点—529 点 | 3 万元/3 年間 |

ただし、奨学金を申請できる者は当年の高校入試に参加した新卒中学生のうち、小学校、中学校は汇佳以外の学校に在学した者に限定している。また、奨学金は、一度に全額を支給するのではなく、三回にわたっての支給となり、高校一年入学時に奨学金の三分の一を支給し、残りの奨学金が高校一年、二年修了時履修科目の GPA 成績が 3.6 以上の人に対して高校二年生、三年生に進学する際にそれぞれ残額の半分を支給することとなる。なお、現金で直接生徒に渡すのではなく、授業料免除という形での支給となる。

そのほかにも、汇佳は全寮制をとっており、毎週日曜日の 20 時までには児童生徒はスクールバスか、各自で学校に戻らなければならない一方、金曜日の授業は 13 時までで切り上げられ、14 時をもって児童生徒は各自実家に戻るようになる。また、PYP、MYP、DP プログラムごとに食堂が設けられている。さま

さまざまな民族、風習を配慮し、豊富なメニューが提供されている。そして、検診部も整備されており、24時間体制で児童生徒の健康管理に力を入れている。

4-2. 中国人民大学附属高校国際部の運営実態



学校紹介

中国人民大学附属高校は北京市中心部の繁華街に面している、敷地面積は約9.5万平方メートルの学校である。また、中国教育部に直属する重点学校であり、北京市最初に指定されたモデル高校の一つである。これまで多くの生徒が国際、国内の発明大会や各教科のコンテストにおいて、優れた成績を残しただけではなく、卒業生のほとんどは清華大学、北京大学、中国人民大学等中国国内の名門大学への進学を成し遂げ、中国国内の高校のトップの座につく学校でもある。当校は2002年に北京市人民政府によって、外国籍生徒の受け入れを許可された公立学校であり、現在24カ国の約200名の外国籍の生徒が中国籍の生徒と一緒に勉学している。当校は2012年にIB認定校に指定され、2013年に生徒を募集し始めたところである。

教育理念・方針

当校は世界平和の使者となるものの育成を目標としている。また、世界平和の使者となるものとして、全面的発達を遂げるだけでなく、著しい特技を持つこと、さらに革新的精神と高尚な品徳を備えることも想定されている。

当校の掲げている教育理念は「個性の尊重、潜在力を引き伸ばし、すべては生徒の発達のため、祖国の発展のため、人類の進歩のため」といったものである。

また、自らの目指している教育目標、掲げている教育理念を実現させるためには、「すべての生徒に適した教育を創造する」といった教育方針を打ち出している。



<http://www.rdfz.cn/xxgk/xxjj/>

カリキュラムの設置

現在、国際部において、二つの学習のスタイルが導入されている。即ち、外国籍生徒向けの中国語の訓練という目的を達成させるために開設された言語クラスと、卒業資格の取得を主な目的とする学制クラスのことである。さらに現在履修中のカリキュラムが三つに分けられる。

- (1) A-level (General Certificate of Education, Advanced Level) プログラム：イギリスの大学入学資格を取得するためのカリキュラムであり、現在、4つのクラスの約120名の生徒が在籍している。
- (2) AP (Advanced Placement) プログラム：APは、アメリカの大学入学資格を取得するためのカリキュラムであり、現在、2クラスの60名の生徒が在籍している。
- (3) IB (DP)プログラム：中等教育の最終2学年の生徒に共通カリキュラムを設定し、統一試験により国際バカロレアの資格取得ができるプログラムのことであり、資格取得者は、世界の多くの国々で大学入学資格と同等の資格を有すると認められる。現在1クラスの35名の生徒が在籍している。

A-level、AP、IB (DP)を履修する生徒は、それぞれのカリキュラムの履

修と同時に中国の普通高校カリキュラムの履修も求められる。また A-level 、 AP 、 IB (DP)カリキュラムの履修を終え、検定試験に合格する者に、それぞれのプログラムの修了を認める卒業資格の授与とともに、中国の高校卒業資格も与えられる。しかし、A-level 、 AP 、 IB (DP)の資格が中国国内の大学への進学資格として認められていないことは汇佳と同じである。

6 Subject Groups / 六つの探究教科群	
Group 1	Language A1 第一言語 文学 言語A(中国語)
Group 2	Second Language 第二言語 言語と文学 言語B(英語・スペイン語・フランス語)
Group 3	Individuals and Societies 歴史・哲学・経済・商業管理・心理学
Group 4	Experimental Sciences 物理・化学・生物・設計・環境システム
Group 5	Mathematics and Computer Science 数学
Group 6	The Arts メディア芸術(美術・音楽・演劇・映画・コンピューター)

DP を取り上げると、カリキュラムの設置は IBO の定めている TOK・CAS・EE の三つの活動領域の六つの探究教科群に従って、语言 A (中文)、语言 B (英語・スペイン語・フランス語)、历史、哲学、经济、商业管理、心理学、物理、化学、生物、設計、環境システム、数学、メディア芸術など複数の教科目が開設されている。これらの教科目の六つの探究教科群における位置づけは以下の表通りに示されている。ここで特筆すべきは、スーパーバイザーの支援のもとで、生徒主体の CAS 活動には 178 時間の実施が必要とされていることである。これは IBO の定めている 150 時間を大きくオーバーしていることになる。また、当校では、選択科目を 150 種類以上開講していることも大きな特徴として取り上げられる。

とで、生徒主体の CAS 活動には 178 時間の実施が必要とされていることである。これは IBO の定めている 150 時間を大きくオーバーしていることになる。また、当校では、選択科目を 150 種類以上開講していることも大きな特徴として取り上げられる。

其の他

中国人民大学附属高校国際部の IB プログラムを受講するための資格として、汇佳国際学校と同様に、中国で行われる高校入試の成績が重要である。ただし、ここでの合格ラインは汇佳よりも高く、高校入試科目全体 570 点満点のうち 545 点以上が求められる。とりわけ、高い英語力が求められる。ここでも、545 点を達した応募者は、当校で独自に実施する面接及び筆記試験もクリアしなければならない。さらに、成績が優良だけではなく、中学校での日常の品行も選抜の

視野に入れられており、応募者の出身中学校の推薦書が求められているのである。

現在、A-level、AP、IB (DP)のカリキュラムを履修する生徒の全員は中国籍となっているが、2014年度から外国籍の生徒の募集も視野にいて調整が行われているという。また、これまで、IB カリキュラムを履修した卒業生はまだいないが、1999年から始めた A-level、AP カリキュラムを履修した生徒の全員が海外大学への進学し、その割合を見てみると、75%はアメリカ、20%はイギリス、5%は他の国や地域となっている。

A-level、AP、IB (DP)のカリキュラムを担当する教員陣は90名に及び、外国籍教員の占める割合は半数以上を占めているのである。

中国人民大学附属高校国際部は現在、IB(DP)プログラムの受講生から年間10万元(約180万円)の授業料を徴収している。それと同時に、受講生を対象に、① 優秀外国籍生徒奨学金 ② 優秀卒業生奨学金とともに、TOEFL・SAT・GRE・GMAT・ACT・SSAT といった海外大学への進学資格の取得と関連する奨学金も設けられている。

なお、海外へ進学する際、TOEFL の成績が求められることは汇佳と同じ状況にある。

おわりに

以上、汇佳国際学校及び中国人民大学附属高校国際部に対する調査から、中国における国際バカロレア設置の現状について考察を行った。この二校においては、教育理念そして、カリキュラムの設置はIBOの定める通りになっており、IBOの目指している教育理念、育成すべき人間像の備えるべき資質について、IBOの発祥地の西欧と異なる文化、社会的背景を持つ中国においても重視されるようになったことが明らかであった。

他方、IBは本来外国で働く父母に連れられ、海外へ渡航している子どもに将来母国に戻るときに順調に母国で教育を受けられるために、考案された教育の形態である。それゆえ、IB認定校は基本的にはホスト国以外の国籍を有する子どもを受け入れることが前提としている。しかし、汇佳国際学校と中国人民大学附属高校の場合、むしろ中国籍を持つ生徒を中心に受け入れていることに共

通しており、在籍している中国籍の生徒の海外進学を実現させるための存在という意味合いが強く感じられる。

さらに、両校に対する調査から、IB 認定校によって、合格ラインの設定、カリキュラムの設置、クラスの規模、授業料の徴収などにおいては、相違点も多く確認された。これらの相違点から、現在、中国においては、国際バカロレアの導入に関する法律や制度の整備が欠けていることが示唆され、今後改善すべき課題として考えられる。

参考文献

1. 相良憲昭・岩崎久美子『国際バカロレア-世界が認める卓越した教育プログラム』明石書店、2007。
2. 西村俊一『国際的学力の探求：国際バカロレアの理念と課題』創友社、1989。
3. 楠山研『現代中国初中等教育の多様化と制度改革』東信堂、2010
4. 黄丹青「中国における国際バカロレア導入の概況及びその背景について」『国立教育政策研究所紀要』第142集、2012、p. 155。
5. 『中国教育改革と発展綱要』何東昌主編、『中華人民共和国重要教育文献(1991～1997)』海南出版社、1998、pp. 3467－3473。
6. 『關於開弁外国籍職員子女学校的暫定管理弁法』何東昌主編、同上書、p. 3801。
7. 『關於開弁外国籍職員子女学校的暫定管理弁法』何東昌主編、同上書（1998～2002）、p. 331。
8. 『高等学校接受外国留学生管理規定』何東昌主編、同上書（1998～2002）、pp. 511－513。
9. 『国家中長期教育改革和發展企画要綱（2010—2020）中国教育部ホームページ

http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/201008/93785.html

『中華人民共和国教育年鑑 2012』 中国国家教育部ホームページ

http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/201008/93785.html

文部省ホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/

IBO ホームページ

<http://www.ibo.org/>

5. カタールにおける国際バカロレアの展開

はじめに

カタール国（以下カタール）はペルシア湾カタール半島を占める、人口 170 万人（2010 年）のアラブ・イスラーム国家である。周囲はサウジアラビアやイラン、オマーンといった大国に囲まれているのに対し、11,427 平方キロメートルという秋田県よりもやや狭い面積に相当する領土しか持たない小国である。一方で、1940 年代に発見された原油と天然ガスの生産が国内総生産の 60%、国家輸出額の 85%を占めており、そのオイルマネーによる一人当たりの国内総生産は湾岸諸国でも最高水準を維持している

1. 1971 年の独立以降、いかにして資源依存型経済から脱却するかを模索し、知識基盤型産業を中心とした産業構造の多角化への転換を進めてきた。こうした湾岸諸国に共通した課題をもっている一方で、国家の全人口のうち自国民が 20%ほどしか占めないという「国民マイノリティ国家」としての特徴を持っている²。これらの外国人（Expatriate）は主に外国人労働者としてカタールに滞在し、もともと砂漠地帯で人口が希薄だったカタールの発展に大きく貢献してきた。そのため公用語はアラビア語であるが、英語も広く使用されており、グローバル化が進展した社会の一つの形態として捉えることができる。

こうした状況を示すカタールでは、国民の人材育成の手段として教育分野にも多額の投資がなされてきた。カタールでは政府による原油の輸出による収入



図1 カタールと周辺諸国の位置

の分配の一環として、教育分野においては公立の小学校から大学までの授業料や入学金、教科書等が無償とされている。伝統的にはアラビア語やクルアーンを中心としたイスラーム学習に力点が置かれていたが、知識基盤型経済の発展を目指し、欧米のカリキュラムの導入や制度の構築が積極的に進められている。

本稿では、このような社会特徴をもつカタールにおいて、国際バカロレア（International Baccalaureate、以下、IB とする）がカタールの教育制度の中でどのように位置づけられ、IB 認定校において実際にどのような取り組みがなされているのかを明らかにすることを目的とする。カタールはその人口構成から国際化が大きく進んだ一つの社会形態として捉えることができるが、そのような社会において、IB 認定校がどのように運営され、どのような位置づけにあるのかを考察することは、意義があると考えられる。カタールの教育制度に関する体系的な研究は実質的に皆無であるが、カタールの教育改革に大きく関わっている、米国のシンクタンクであるランド研究所が数点の報告書を公表している。一方で、IB についてはこれらの報告書の中でも概要として取り上げられているのみであり、カタールにおける IB を主題とした研究はこれまで行われてこなかった。

以上の目的を果たすために第一節でカタールの教育制度の展開をとりあげ、近年の教育制度改革の動向を確認する。第二節でカタールにおける IB 認定校の展開状況と高等教育機関への接続を概観する。そして、第三節で具体的な IB 認定校を取りあげ、それらの学校においてどのような取り組みがなされているのかを考察することを通し、カタールの教育制度における IB の位置づけを明らかにする。なお、本稿で対象とする IB プログラムは、後期中等教育段階に当たる Diploma Program (DP) とその卒業資格である IB Diploma を対象とする。

5-1. カタールの教育制度

本節では、次節以降にカタールにおける IB の展開を考察する前段階として、カタールにおける教育制度の歴史的展開と、現在の制度の整備状況について、主に後期中等教育を中心に確認する。

(1) カタールにおける後期中等教育制度の概要

カタールの教育制度は6-3-3-4制であり、初等教育(Primary, 1~6学年)、予備教育(Preparatory、前期中等教育に相当、7~9学年)、中等教育(Secondary、10~12学年)の3段階から構成されている。人口のマジョリティを占める外国人の子どももカタールの公用語であるアラビア語の学習が義務づけられている。また、12歳以上は男女共学が認められておらず、教師の性別についても男子生徒は男性、女子生徒は女性の教師がそれぞれ教えることが原則となっている³。また、2001年に公布された義務教育法が2009年に改訂され、初等教育から前期中等教育までであった教育の無償と義務教育が、後期中等教育終了まで拡張された⁴。

2009年における中等教育純就学率は79%(男67%、女98%)であった。後期中等教育については、2005年度には学校数が59校、生徒数が26,500人であったのに対し、2009年度には学校数が110校、生徒数は32,265人(うち女子生徒は48%)と拡大を示している⁵。カタールの後期中等教育段階の学校は、「後期中等教育多様化プラン(1993-2003)」によって「一般教育」「技術教育」「商業教育」の3つのタイプに分けられている。一般教育においては第10学年ではすべての生徒が同じコースと受けることになるが、第11学年以降は科学コース(物理・数学・科学・生物)か文系コース(言語・社会科学)のいずれかを選択することとなる。技術教育では11の専攻から構成される4つのコースから構成される。それは技術部門(建築技術・塗装技術)、機械部門(軽車両、重量車両)、電気電子部門(工業電気、テレビ・ラジオ、エアコン・冷蔵庫、電気学)、無機部門(加工、鍛冶、金属成形)の4コースである。商業教育は、事務管理、中級会計学、金融・保健の3つのコースから構成される。また上記の他、農業教育(土壌、家畜、水産など)や応用教育(郵便業務、ホテル業務、保育士など)といった新しい形態の学校が設置されている⁶。

後期中等教育の学校の運営形態については、「インデペンデント・スクール」「民間アラブ学校」「インターナショナル・スクール」「大使館関連コミュニティ学校」の4種類に分類される。インデペンデント・スクールは後述の「新時代の教育改革(Education for New Era)」の流れから設置された、学校独自の教育目的を実行する自律性を認められた学校である(後述)。民間アラブ学校は、民間資本のもとでアラブのカリキュラムに特化した教育を提供する学校である。この学校は伝統的なカタールのカリキュラムで学びたいカタール人や

近隣のアラブ諸国の子ども向けに運営されている。インターナショナル・スクールは外国のカリキュラムに従っているが、大使館関連コミュニティ学校とは異なり大使館管轄のもとにはない学校であり、カタール人と外国人の両方の子どもが就学している場合もある。大使館関連コミュニティ学校はカタールにおける外国人（インド、パキスタン、英国、米国など）の子ども向けに運営されているものである⁷。最高評議会ウェブサイトによれば、2013年度の後期中等教育におけるそれぞれの学校の数はインデペンデント・スクールが54校、民間アラブ学校は5校、インターナショナル・スクールが38校、大使館コミュニティ学校は16校となっており、インデペンデント・スクールとともにインターナショナル・スクールが大きな割合を占めているのが特徴的である⁸。大使館コミュニティ学校以外の学校は、後述の最高教育評議会評価機構に対して年次報告書を提出し、評価を受けなければならない。

（2）カタールにおける教育改革以前の教育制度

原油が発見される以前（1940年代以前）、カタールにおいて体系的な教育システムは存在していなかったとされる。子どもはクルアーンの文章を暗誦したり、教本の文章の読み書きをしていたが、それらの教育はイスラームに関する知識を備えている女性や読み書きできる男性によって、家庭やモスクで行なわれていた。包括的な教育システムの形成に向けた動きは、1948年のドーハにおける男子学校の開設から始まり、イスラーム学や算数、地理学、イスラームの歴史、アラビア語、英語などの授業が行われていた。1951年に政府がこの学校に対し補助を開始し、1954年には他に3校の男子学校へと補助が拡張された。女子の公立学校は1956年に開設されたが、この学校は1938年に設立された女子クッターブに由来している。1950年代には女子よりも多くの男子が就学していたが、1970年代後半にはほぼ同数となり、女子の方が男子よりも良い成績を示すようになっていた。カタールにおける教育部門を管轄する政府機関の展開については、教育省（Ministry of Education）が1950年代半ばに初めて設置され、教科書の編集やカリキュラムの設計などを担っていた⁹。また、公立学校の教師はすべて教育省により雇用される位置づけにあり、教育省がカリキュラムの設定や教科書の選定、教員の人事権を握っていた点で、中央集権的な教育システムが構築されていたことがわかる。

(3) Education for New Era による教育改革

こうした教育省が主導となる教育システムにおいて、いくつか課題も指摘されていた。それらは、①教育省の組織構造が硬直化していたため、変革や改革といった志向が小さく、旧態依然のカリキュラムが用いられていたこと、②教育省の組織構造が不透明であったため、教師や利害関係者にとって意思決定のプロセスが見えず、また教育省からも改善する努力がなされなかったこと、③教育省が校長や教師を任用し、建造物や設備、教科書などを提供していたため、学校経営において、学校の自律性や柔軟性が非常に少なかったこと、④以上の状況から、教師は教育省により設定されていた教育カリキュラムに沿って授業を行っていたが、教師は生徒の成長やパフォーマンスに関する説明責任をもたなかったこと、が挙げられる。こうした状況に対し、カタール首長であるハ

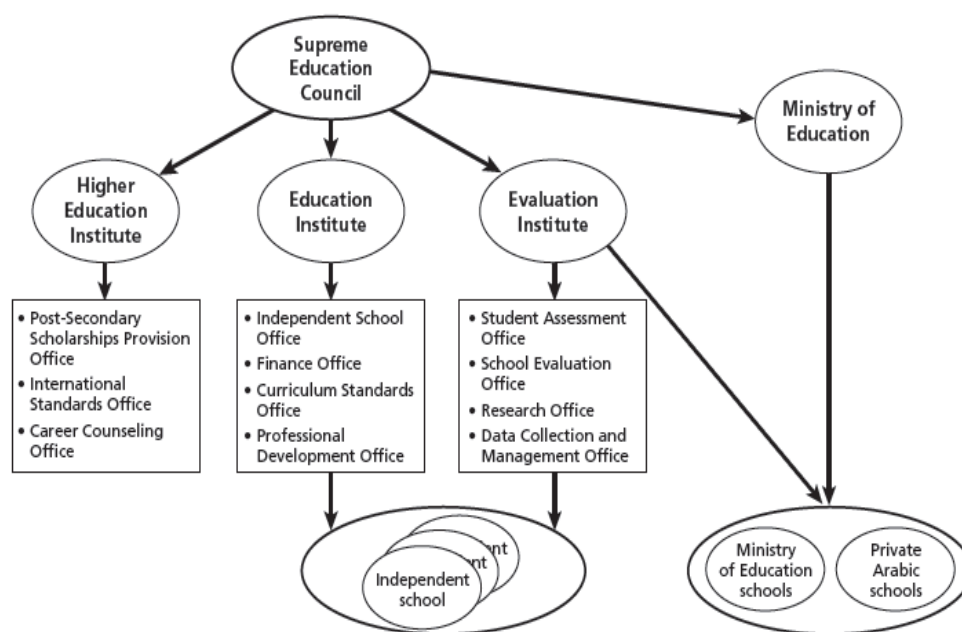


図2 カタールにおける教育行政組織の仕組み(2006年)

出典: Rand Qatar Policy Institute, *Developing and Implementing the Qatar Student Assessment System, 2002-2006*, Rand Corporation, 2009, p.4.

マド首長 (His Highness Sheikh Hamad Bin Khalifa Al Thani) は米国のランド研究所に、K-12 教育 (第 12 学年まで) の改革ためのコンサルティングを依頼した。ここに端を発し、「新時代の教育 (Education for New Era)」と呼ばれる一連の教育改革が開始された¹⁰。

この教育改革は世界水準の教育制度を展開するために必要な質を保証するために2002年より実行されており、4つの原理（自律性、アカウンタビリティ、多様性、選択制）が改革の基盤とされている。そしてこの改革における最も重要な変化は最高教育評議会（Supreme Education Council）の設置による行政組織の改編と、インデペンデント・スクールの設置である¹¹。

まず前者について、教育省を残しつつも新たな意思決定機関として最高教育評議会が設置され、高等教育機構（Higher Education Institute）、教育機構（Education Institute）、評価機構（Evaluation Institute）が設置されるとともに、教育省が最高教育評議会の監督のもとに置かれることとなった（図2）。2006年時点ではインデペンデント・スクールは教育機構が設定するスタンダードを満たすカリキュラムを提供し、また評価機構により定期的に評価を受けることとされた。また、公立学校は教育省の管轄を維持する一方、評価機構による評価を受けなければならなくなった。これらの評価は「学校報告カード」として最高教育評議会のウェブサイト上で公表され、当該学校に対するアンケートなどを公表されることで、学校に関する情報の公開がより促進されることとなった¹²。

後者のインデペンデント・スクールについては、米国のチャータースクールを参考にして導入された。インデペンデント・スクールは前述の通り、これまでは中央集権的・画一的・硬直的であった学校教育を多様化し、学校の独自性と自律性を向上させるために導入されたものであり、教育機構から認可を受けることができれば、例えばカタール石油（Qatar Petroleum）といった民間企業でも学校を設立することができる一方、生徒の授業料はカタール政府が負担することとなる。授業料はカタール人生徒には無料であるが、他の国籍の生徒にも認められる場合がある。すべてのインデペンデント・スクールはアラビア語、英語、数学、科学のカリキュラムを提供し、それぞれの科目において設定されている基準を満たさなければならず、設置のためには最高評議会からの認可が必要となる。この改革以前に設置されていたすべての公立学校はインデペンデント・スクールに段階的に移行することになっている¹³。

5-2. カタールにおける国際バカロレアの概要

前節までは、カタールの教育制度の歴史的展開を概観し、現在の後期中等教

育制度の改革動向を明らかにした。本節ではカタールの教育制度の中に IB がどのように位置づけられるのかを、主に IB 認定校の展開状況と大学への接続を中心に考察する。第一項で、カタールにおける IB 認定校の展開状況を確認し、第二項において IB 認定校がカタール国内の高等教育機関とどのように接続がなされているのかを取りあげる。

(1) カタールの教育制度と国際バカロレア

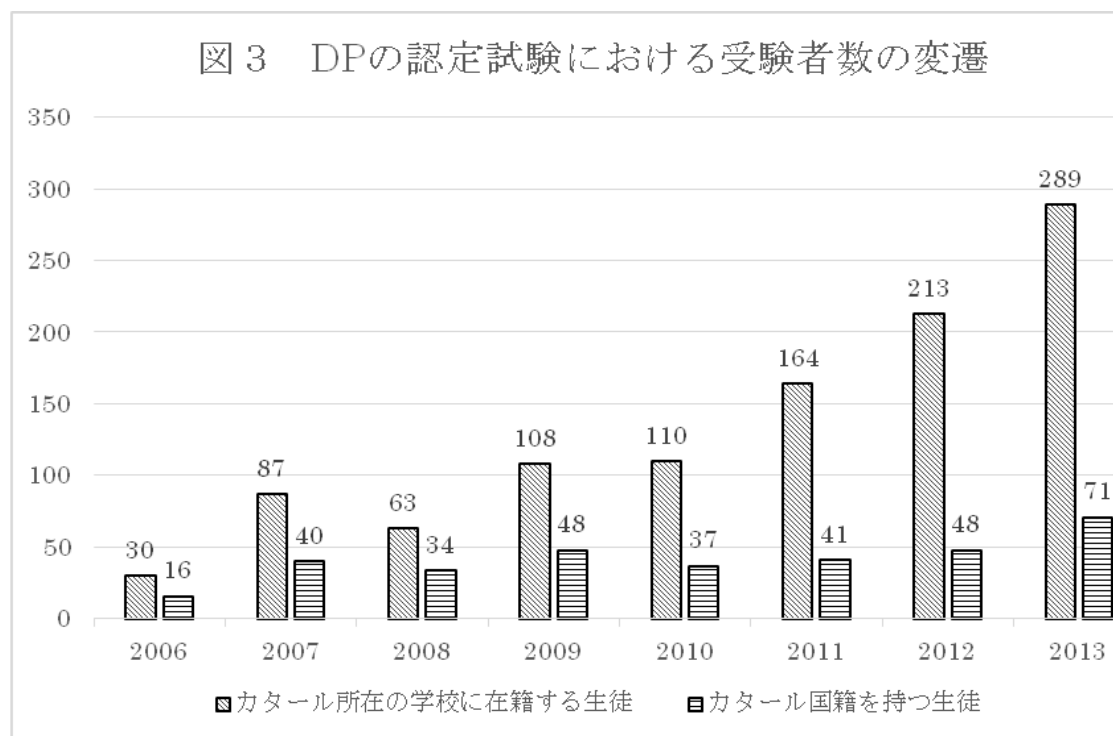
本項ではカタールにおける IB 認定校の展開について概観する。まず、カタールにおける IB 認定校に所属する生徒数について見てみよう。どれくらいのカタール人が IB 認定校に所属しているのかについて述べている文書は見当たらないが、国籍別・学校所在地別の DP の認定試験受験者の数字は公表されている。図 1 を見てみると、2013 年には 71 人のカタール人生徒が DP の認定試験を受験しており、また、カタール所在の IB 認定校からは 289 人の生徒が DP の認定試験を受けていることから、カタール所在の IB 認定校では外国人が大きな割合を占めていることが推察される。また経年的な変化を見てみれば、2006 年時点ではカタール人生徒の受験者数が 16 人、カタール所在の認定校に所属する生徒が 30 人であり、この 7 年間でそれぞれ 4.5 倍、9.6 倍の増加を示していることから、規模は小さいながらも IB 認定校が着実に発展してきたことが見て取れよう。国際バカロレア機構によれば、カタールにおいて DP を提供している後期中等教育機関は表 1 の 9 校である¹⁴。学校種別に見れば、うち 2 校がインデペンデント・スクールであり、7 校がインターナショナル・スクールとなっている。これらの 9 校の学校のうち、8 校はカタールの首都であるドーハに設置されている。設置された時期を見てみれば、カタールで最も早く IB 認定校となったカタールアカデミー以外は 2005 年以降に IB の認定を受けており、近年急速に IB 認定校の設置が進んだことが見て取れる。カタールでは後期中等教育は基本的に別学であるため、インデペンデント・スクールにおいては IB 認定校であっても男女別学となっているが、インターナショナル・スクールに関してはその制限がなく、男女共学の学校がほとんどを占めている。唯一インターナショナル・スクールにあたる学校で男子校であるカタールリーダーシップアカデミー (Qatar Leadership Academy) はカタール軍とカタール財団のパートナーシップのもとで設立された IB 認定校であり、カタールの将来のリーダーを育成するという士官学校としての性格も持っている。インデペンデント・スクールであ

る IB 認定校は 2 校設置されているが、このうち Al-Bayan Educational Complex for Girls (ABCFG) は 2004 年にインデペンデント・スクールに移行した 11 校（これらの学校は「第一期 (First Generation)」と呼ばれている）

表 1 カタールにおける IB 認定校 (DP) 一覧

学校名	性別	類型	IB 認定年	公・私
ACS Doha International School	Mix	International	2013	Private
Al-Bayan Educational Complex for Girls	Female	Independent	2007	Private
Al Wakra Independent Secondary School for Boys	Male	Independent	2007	Public
Doha British School	Mix	International	2010	Private
International School of London Qatar	Mix	International	2011	Private
Qatar Academy	Mix	International	2002	Private
Qatar Leadership Academy	Male	International	2007	Private
The American School of Doha	Mix	International	2009	Private
The Gulf English School	Mix	International	2005	Private

出典：International Baccalaureate, https://www.ibo.org/school/search/index.cfm?programme=s=DIPLOMA&country=QA®ion=&find_schools=Find (2014/02/06)



出典：International Baccalaureate Organization, *Diploma Programme Statistical bulletin*, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013 の各資料より筆者作成。

に含まれていたが、複合学校（Complex）は他の公立学校とは異なりもともと学校に一定の自律性が認められていたため、インデペンデント・スクールへの移行にはあまり乗り気ではなかったが、最終的には移行を果たしたという¹⁵。

（2）大学への接続

本項ではカタールにおけるIB認定校の高等教育機関への接続について確認する。カタールにおける教育関連法規にはIBや教育の国際化に関わる規定が存在しない。一方で、表2の通り、カタールでは1校の国立大学に加え、その他は私立大学か外国大学分校しか設立されていないため、それぞれの大学における入学要件と入学後の単位認定の中でIBがどのように扱われているのか中心に考察する。

カタールで唯一の国立大学であるカタール大学では、IB Diplomaは正式な入学資格として認識されており、入学申請の最低条件として3点挙げられている。それは①full IB Diplomaを保持しており、かつ最低でも2科目でHigh Level (HL)、4科目でStandard Level (SL)の成績を残していること、②「知識の理論 (TOK: Theory of Knowledge)」と「課題論文 (Extended Essay)」を除いた42点の合計点のうち、24点以上の成績を残していること、③科学トラックで必要となる専攻について、2つの科学科目と一つの数学科目で最低でも4以上の評価点を保持していること（3科目のうち2科目はHLでなければならない）。他の3科目においては、最低でも3以上の評価点を獲得しなければならない、の3点である。また、カタール大学の入学申込みの締め切り時点ではIB認定校は最終学年の最中であり、成績が確定していないため、予測される成績 (predicted grades) を提出することになる。その後、成績を照合するために大学へ正式のIBの成績を提出することになるが、成績の最低基準を満たしていない場合、入学許可は取り消されることとなる¹⁶。

表2 カタールにおける高等教育機関一覧

高等教育機関名称	本校所在国	設立年
ウィルコーネル医科カレッジ	米国	2002
カーネギーメロン大学	米国	2005
ジョージタウン大学	米国	2003
テキサス A&M	米国	2004
ヴァージニア・コモンウェルス大学	米国	2998
ノースウェスタン大学	米国	2008
HEC パリ・カタール	フランス	2011
イスラーム研究センター	カタール	2007
カルガリー大学・カタール※	カナダ	2007
ノースアトランティックカレッジ	カナダ	2002
カタール大学	カタール	1973

出典：カタール最高教育評議会ウェブサイト他、各大学のウェブサイトを参照、※はエデュケーションシティ外に位置する高等教育機関、

[Http://www.sec.gov.qa/Ar/SECInstitute/HigherEducationInstitute/Offices/Documents/5-Education_City_Universities.pdf](http://www.sec.gov.qa/Ar/SECInstitute/HigherEducationInstitute/Offices/Documents/5-Education_City_Universities.pdf)

表3 Texas A&MにおけるIBの単位認定の例

IB 試験	最低必要スコア	Texas A&Mコース	履修単位数
生物 Standard Level	4w/ Diploma	BIOL 113/123	4
生物 High Level	4	BIOL 111	4
	5	BIOL 111, 112	8
経済・経営 Standard Level	4w/ Diploma	MGMT 309	3
経済・経営 High Level	4w/ Diploma	MGMT 309	3
Histry(Africa) HL	4w/ Diploma	HIST 289	3
Histry(America) HL	4w/ Diploma	HISR 205	3
	5w/ Diploma	HIST 105, 106	6
Histry(E & SE Asia, Oceania) HL	4w/ Diploma	HIST289	3
Histry(Europe) HL	4w/ Diploma	HIST 102	3
Histry(South Asia & Middle East) HL	4w/ Diploma	HIST 289	3
Histry(Islamic History) HL	4w/ Diploma	HIST 289	3
French: Language A or B SL	4w/ Diploma	FREN 101	4
	5	FREN 101, 102	8
French: Language A or B HL	4	FREN 101, 102	8
	5	FREN 101, 102, 201, 202	14

Source, *undergraduate catalog Texas A&M UNIVERSITY at Qatar 2007-2008*, Office of Public Affairs, Texas A&M University at Qatar, 2006, pp.40-42.

次にその他の外国大学分校の入学要件における IB の扱いを確認する。カタールにおいてはカタール大学以外の高等教育機関はほとんどが欧米諸国からの外国大学分校に占められているので、IB Diploma に対する単位認定の要件もカー

ネギーメロン大学やヴァージニア・コモンウェルス大学など、いくつかの機関で設定されている¹⁷。例えば Texas A&M カタール校では IB 認定校のプログラムにおける試験の成績に応じて、大学における単位認定を行なっている。Texas A&M ではコースや専攻によって IB の単位認定の方式が変わるため、IB による単位認定を希望する学生はアドバイザーと相談の上、IB を用いた単位認定を申請することになる（表 3）。

以上のカタールにおける IB の展開状況をまとめると、以下の 2 点にまとめることができる。第一に、カタールにおける IB 認定校は主に①政府が設定するカリキュラムに縛られずに学校を運営する「インターナショナル・スクール型（6 校）」、② Education for New Era の流れから展開され、ある程度の独自性や自律性が認められつつも、男女別学やアラビア語学習など、一定のカタールにおける文化的背景などを考慮して運営される「インデペンデント・スクール型（2 校）」、③特定の目的を達成するために政府主導により設置された「政府主導設置型（1 校）」である。このように、一言で IB 認定校といえども、カタールの教育改革の流れに沿って様々な位置づけの IB 認定校が運営されていることがわかる。そして第二に、カタール国内の大学への進学について比較的寛容な仕組みが整備されているということである。カタールにおいて IB 認定校に係わる規定が存在しているわけではないが、唯一の国立大学であるカタール大学は正式な卒業資格の一つとして IB Diploma を認め、手続き上でも寛容な措置が講じられている。また他の大学は欧米由来の外国大学分校であるため、当然 IB Diploma についても卒業資格として認められる状況にあり、IB の成績に応じた単位認定も行われている。このように、カタール国内においても IB 認定校および IB Diploma といった資格は、既存の学校等と大きく区別されることなく根付いていることが推察される。

5-3. カタールにおける IB 認定校の事例

本節ではカタールにおける具体的な IB 認定校を取りあげ、運営の方針やカリキュラムの提供、生徒の卒業生の進路などを概観し、IB 認定校の特徴を明らかにする。具体的な IB 認定校として、一般的なインターナショナル・スクール型の学校としてカタールアカデミー（Qatar Academy）、インデペンデント・スクールの事例として、アル=バヤン女子教育コンプレックス（Al-Bayan

Educational Complex for Girls)、政府主導設置型の事例としてカタールリーダーシップアカデミー (Qatar Leadership Academy) を選定した。

(1) カタールアカデミー (Qatar Academy)

カタールアカデミーは 1999 年にカタール財団¹⁸が主導して設立された私立学校であり、ドーハ郊外のエドゥケーション・シティに立地している。2002 年に IB 認定校として認定され、現在では DP のみではなく PYP (初等教育における IB プログラム) や MYP (前期中等教育における IB プログラム) の課程も提供されている。生徒におけるカタール人の割合は、2011 年度においては 10 学年で約 60%、11 学年で約 50%、12 学年で約 40%であり、約半数がカタール人生徒により占められている。2011 年には 68 名のディプロマ申請者がいたが、試験の結果そのうち 48 名が IB Diploma を獲得し、うち 16 名が Bilingual Diploma¹⁹を獲得した。IB Diploma を獲得した生徒の平均点は、7 年満点で 4.9 点であった²⁰。2012 年には 74 名の申請者のうち 45 名が IB Diploma を獲得し、平均点は 5.0 点であったという²¹。生徒の進学先としては、主にカナダ、英国、米国の高等教育機関である一方、エドゥケーション・シティに立地するカーネギーメロン大学やジョージタウン大学といった外国大学分校も含まれている²²。IB プログラムへの入学・進学要件としては、①MYP における GPA が 4.0 以上であること、②Personal Project における評価が 3 以上であること、③欠席が 18 日以下であることなどが挙げられている²³。

カタールアカデミーのミッションには「就学前から中等教育にわたるアラビア語とイスラームの学習に加え、国際的に認められ、包括的で、英語媒体のプログラムを提供する。カタールアカデミーは独立した批判的思考を備え、生涯にわたり学習し、責任ある市民を育み、生徒にエリート



出典: Qatar Academy website, <http://www.qa.edu.qa/senior-school/gallery/photo-gallery§ionId=227#!prettyPhoto> (2014年2月28日取得).

の大学やカレッジに入学できるようにする」として、アラビア語やイスラームを考慮したカリキュラムが提供されるとともに、カタールにおける発展に貢献することを意図したエリート養成としての性格が備わっていることが見て取れる。生徒は「英語」「第二言語」「数学」「科学」「人文学」「選択科目」の6グループにおいて科目を選択する。また、4000語の課題論文の提出が必要であり、2011年には6名の生徒が優秀論文として国からの表彰を受けたという。IBのカリキュラム及び試験においては、「アラビア語 A: 言語と文学(HL/SL)」「アラビア語 A: 文学(HL)」「アラビア語 B(HL/SL)」「生物(HL/SL)」「ビジネス・経営(HL/SL)」「化学(HL/SL)」「設計技術(HL/SL)」「経済学(HL/SL)」「英語 A: 言語と文学(HL/SL)」「英語 A: 文学(HL/SL)」「環境システムと社会(SL)」「フィルム(HL/SL)」「フランス語 Ab(SL)」「フランス語 B(SL)」「地理(HL/SL)」「歴史(HL/SL)」「グローバル社会の IT(HL)」「数学研究(SL)」「数学(HL/SL)」「音楽(HL)」「物理(HL/SL)」「スペイン語 Ab(SL)」「スペイン語 B(SL)」「演劇(HL/SL)」「視覚芸術(HL/SL)」といった多様な科目が提供されている²⁴。

(2) アル=バヤン女子教育コンプレックス (ABECG: Al-Bayan Educational Complex for Girls)

ABESG は 1999 年に、科学教育の提供を目的にしたものとしては初めてカタールで開設された私立学校であり、初等教育から後期中等教育までの課程が提供されている女子学校である。当初は石油や工業分野に焦点が置かれ、フィードバックを重視していたが、2004年に最高教育評議会よりインデペン

ト・スクールとしての認可を受けている。この際、最高教育評議会の求める「バランスのとれた生徒」を育成するというビジョンに応えるために、人文学 (Humanities) の提供が開始された。IB 認定校としての認定は 2007 年より受けている²⁵。

学校のミッションについては IB 課程に限定したものは見当たらないが、「就学前から 12 学年までの生徒が、国際的で、バランスのとれた、普遍的な人権の精神と価値を反映し、生徒の特別なニーズを考慮したコミュニティと結びついた、建設的、協力的で高い技術的学習環境における挑戦的な評価システムによって評価されるカリキュラムを通して、自身のアイデンティティと文化の強い意識と理解を備えることを保証する。本校は、生涯学習のための能力と責任を開発するために、学習者の精神的、心理的、社会的、身体的側面を促進し、生徒に国際的で異文化の経験を提供することに従事する²⁶」として、生徒のコミュニティを考慮した学習環境とカリキュラムが提供されるとともに、異文化の経験を通じた国際性の涵養が目指されている。

こうした理念のもと、ABECG では最高教育評議会の水準に従ったカリキュラムを通して得られる国家資格 (National Certificate) と、IB Diploma の資格が



出典: Al-Bayan Educational Complex for Girls website, <http://www.albayan.edu.qa/english/AboutUs/AlbayanNews/tabid/407/articleType/ArticleView/articleId/17/Al-Bayan-Secondary-collaboration-for-different-learning.aspx>(2014 年 2 月 28 日取得).

Menu1	HL科目	数学・物理・化学
	SL科目	イスラーム学習、英語、アラビア語、IT、ビジネス、体育
	卒業要件	CAS(150Hours), Extended essay
	専攻	工学、体育、物理、イスラーム学習、化学、英語、アラビア語、科学、政治学、IT
Menu2	HL科目	数学・生物・化学
	SL科目	イスラーム学習、英語、アラビア語、IT、社会科、体育、物理
	卒業要件	CAS(150Hours), Extended essay
	専攻	医学、生物、工学、体育、物理、イスラーム学習、化学、英語、アラビア語、科学、政治学、IT
Menu3	HL科目	英語、アラビア語、社会科
	SL科目	イスラーム学習、数学、物理、化学、IT、ビジネス
	卒業要件	CAS(150Hours), Extended essay
	専攻	体育、物理、イスラーム学習、英語、アラビア語、デザイン、社会科

出典: *Academics*, Al-Bayan Educational Complex for girls, <http://www.albayan.edu.qa/english/EducationalLevels/SecondarySchool/Curriculumandcourses.aspx>

得られる2年のプログラムが提供されている。IBのカリキュラムについては生徒の興味関心に従い、3つのメニューから選択することとなる²⁷（表4）。3つのHL(High Level)の科目と、3つのSL(Standard Level)の科目が整備されているが、いずれのメニューにおいてもアラビア語とイスラーム学習が配置されており、ABECGにおける学習の基盤とされていることが見て取れる。一方で、それぞれのメニューにおける科目の構成から、メニュー1については理工学系、メニュー2については医歯薬系を志望する生徒が所属することが推察され、もともと科学学校であった名残を残していると考えられる。

(3) カタールリーダーシップアカデミー (QLA: Qatar Leadership Academy)

カタールリーダーシップアカデミーはH.E Sheikh Joaan Bin Hamad Al Thaniが主導となり、カタール財団とカタール軍との協力のもと2005年に設立された高等学校である。設立にあたり、特にアメリカのウィスコンシン州にあるSt. John's Northwest Military Academyと早くからパートナーシップを結び、様々な助言を得たとされる。2005年に開学した際は32名の陸軍士官生徒が在籍していたが、2007年には81名の生徒が在籍しており、またこの年にIB Diplomaの認定を受けることとなった。2008年に最初の卒業生が排出され、2009年の卒業生は最初のIB Diplomaの資格を得ることになった。現在では6～12学年で、カタール内外から約100名の生徒が在籍している²⁸。卒業生は北アトランティック大学やジョージタウン大学、Texas A&Mといったカタール国内の外国大学分校の他、ノッティンガム大学やカイロ・アメリカン大学、ウェールズ大学といった国外の大学にも進学する。またこれらの大学の他、カタール人として初めて米国軍事アカデミーへの入学を果たしている²⁹。入学要件は、中学校までの成績と、数学・英語の試験から判定され、年間に生徒が負担する費用については、授業料、教材費、下宿代などを含め、カタール人・カタール在住外国人であれば52,500QR（約148万円）、留学生であれば53,500QR（約151万円）を支払わなければならない³⁰。

QLAはそのビジョンとして「今日、明日のリーダーを形成する」を掲げており、そのミッションを「青年が明日のリーダーとなるために、学問、リーダーシップ、運動における卓越性を促進する環境で従事させることによって、個人の成長を促進することを目的とする」として設定している。中核的価値には、

誠実さ、野心、義務感、透明性、チームワーク、卓越性、協力、健全性、勇気、決断力、相互尊重、誠実、思いやり、の13項目が挙げられている³¹。

表5 QLAにおけるIBに関する科目

グループ1	アラビア語（言語と文学） 英語（言語と文学）	HL SL
グループ2	アラビア語 B 英語 B	HL SL
グループ3	経済学 歴史	HL SL
グループ4	生物 物理	HL SL
グループ5	数学研究 数学	SL
グループ6	化学 フランス語 Ab (SLのみ) 映像芸術	HL SL

出典：Qatar Leadership Academy, *International Baccalaureate Diploma Program Guide*, 2012, p.22.

QLAにおけるIBの科目について表5にまとめた。生徒は自身の進学を希望する分野に沿って、グループ1～6の中から一科目ずつ選択し、同時に少なくともHLで3科目を履修することとなる。評価については、良い方から7～1の7段階の評価がなされる。11学年から12学年への進級の要件として、「選択した6科目で20点以上を取得する」「評価1を取らない」「知識の理論でD以上」「課題論文のドラフトを提出し、監督者から了承を得る」「CAS Journalを提出し、CASコーディネーターより了承を得る」ことが求められている。QLAはインターナショナル・スクールの位置づけであるが、最高評議会からのバウチャーを受けることを希望する場合、その生徒はアラビア語を必ず履修しなければならないとされている。

このように、QLAでは一般的なIBのプログラムが設定されていることに加え、「リーダーシップ・プログラム」が展開されている。リーダーシップ・プログラムとは、生徒が士官としての能力を洗練させるための課外活動のことであり、前述のミッションを達成するための活動とされている。リーダーシップ・プログラムにおいては、4～6人単位で部隊が生まれ、チームのメンバーとして様々な活動に取り組むこととな



出典：Qatar Leadership Academy website, qla.finyal.co/ (2014年2月28日取得).

る。科目には、射撃、フィールドクラフト、無線交信法・無線通信、基礎体力など10の科目が設けられている³²。また、基礎体力の科目においては、QLAにおいて到達すべき基準などが設定されている³³。それぞれの科目における評価は、リーダーシップ局、教員、上級士官といった様々な評価者により行なわれ、チームワーク、リーダーシップ、指令（Command）、学問（Academic）の4つの側面から、A～Fの5段階（Eを除く）により評点がつけられる³⁴。

おわりに

本稿では、カタールにおけるIBの展開について、主に制度的な側面からその位置づけを分析し、3校のIB認定校を事例として取りあげた。カタールでは、中央集権的な教育制度から脱する教育改革の流れから後期中等教育段階の学校に対して一定の自律性・自由性が付与され、近年は急激にIB認定校も増加してきている。本稿において取り上げたカタールにおけるIBの展開からわかることは、カタールの学校教育においてIB認定校はかなり深く根付いているということである。外国のカリキュラムに沿ったインターナショナル・スクールの形態をとるIB認定校のみではなく、カタールにおける教育環境やカリキュラムに配慮した認可制のインデペンデント・スクールや、防衛省が主導して設置された士官学校の特徴を持つIB認定校など、多様な位置づけのIB認定校が運営されている。さらにカタール国内においても、高等教育機関との接続という点では、カタール大学や外国大学分校にスムーズに進学できるように、それぞれの大学による入学要件が整備されている。国家によりIBに関連する政策や制度がこれまで整備されていないのも、欧米の大学への進学がある程度当たり前を見なされていることが一つの理由として挙げられよう。第三節では3校のIB認定校を取りあげたが、カタールアカデミーや、インデペンデント・スクールとして運営されているアルバヤン女子教育コンプレクス、カタール国軍とのパートナーシップのもとで設置されたカタールリーダーシップアカデミーというIB認定校において、それぞれの学校の形態や目的に応じた特徴的な取り組みがなされていることが見て取れた。

このように、IB認定校がカタールにおいて深く根付いている要因については、主として2点挙げることができるだろう。第一に、上述とも関連するが、国民が少数を占める国民マイノリティ国家であり、国際的なプログラムと資格が提

供される IB について抵抗なくスムーズに受け入れることができたと考えられる。これは、もともとインターナショナル・スクールが多く設置されていることから見て取れよう。第二に、カタール国内における教育制度の整備の流れにうまく乗ったことである。カタールではもともと学校数自体が少なく、教育省を中心とした中央集権的な教育制度の課題から、より効率性・自律性・多様性を求めた Education for New Era をはじめとした一連の教育改革の流れから、インデペンデント・スクールの中に取り込まれたり、新しい教育プログラムとして採用されるという流れが形成されることで、IB はカタール国内に定着していったと考えることができよう。

結 論

本研究ではアジア諸国における IB の適用動向について、中国・カタールの事例から、主として以下の 3 点が明らかとなった。

①IB に関する理念がカリキュラムに一定程度反映されていること。

教育理念そして、カリキュラムの設置は IBO の定める通りになっていることが明らかとなった。つまり、本研究で事例とした IB 校において、IBO が目指している教育理念、人間像などについて、IBO の発祥地の西欧と異なる文化、社会的背景を持つ中国やカタールにおいても重視されるようになってきている。

②IB の理念を踏襲しつつ、学校の設置目的に応じた独自の取り組みも行われていること

一方で、IB 校は IB の理念を尊重しつつ、それぞれの国家の教育制度や IB 校の設置目的に応じて様々な取り組みが行われていることが明らかとなった。例えば本研究で扱った事例から、カタールにおいてはイスラム教の科目が必修になっていたり、仕官学校という役割から、IB のカリキュラムに加え独自の訓練プログラム（射撃・無線など）が実施されていたりなど、IB の理念のみにとらわれない運営が観察された。

③卒業生の進学ルートは必ずしも国内に限定していないこと

IB は国際的に通用する卒業資格という特色を持つが、例えば中国においては IB を得た場合、通常の学校体系の卒業資格か IB 校としての卒業資格か選択し

なければならず、IBを選択した場合、中国国内の大学には進学することができない。そのためIBの資格を獲得した卒業生は海外の大学へ進学することが余儀なくされる。一方で、カタールにおいては私立大学のほとんどが欧米の外国大学分校であり、国立大学でもIB資格が有効であることから、国内の大学にも比較的進学しやすい状況が整備されている。

以上をまとめると、本研究で扱った国々においては、グローバル化への対応としてIB校が普及してきた一方、その教育制度や社会的背景・設置目的に応じた運営がなされていることが明らかとなった。また必ずしも国家の教育制度と連動していないケースも見られ、IBの普及のためにはIBを教育制度の中にいかに組み込むかが重要であることが示唆された。

¹¹ 杉本均, 中島悠介「トランスナショナル高等教育の展開—中東諸国を中心として—」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第58号, 2011年, 1-18頁。

² 掘抜功二『アラブ首長国連邦における国家運営と社会変容:「国民マイノリティ国家」の形成と発展』京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士学位論文, 2011年, 102-107頁。

³ カタール・日本語教育・地域別情報, 国際交流基金ウェブサイト
<http://www.jpf.go.jp/japanese/survey/country/2011/qatar.html>(2014年2月4日最終アクセス)。

⁴ カタール・諸外国・地域の学校情報, 外務省ウェブサイト http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/06middleeast/infoC60900.html(2014年2月11日最終アクセス)。

⁵ International Bureau of Education, *World Data on education Qatar*. 2013, p.15-16.

⁶ *Ibid.*, pp.13-14.

⁷ Dominic J. Brewer, et al. *Education for a New Era, Design and Implementation of K-12 Education Reform in Qatar*. RAND Corporation; Santa Monica, 2007, pp.20-30.

⁸ 最高教育評議会ウェブサイト(<http://www.sec.gov.qa/En/Pages/Home.aspx>)より筆者推計(2014年2月12日最終アクセス)。

⁹ Dominic J. Brewer, et al., 2007, *op.cit.*, p.20-22.

¹⁰ Gonzalez, G. et al., *Developing and Implementing the Qatar Student Assessment System, 2002-2006*. RAND Corporation; Santa Monica, 2009, pp.2-3.

¹¹ *Ibid.*, pp.3-4.

¹² 学校報告カードには生徒数、教師数、教師一人当たり生徒数、生徒のアラビア語話者／英語話者の割合、性別の割合といった基本情報から、学校のカリキュラムやサービスに対する親の満足度、標準テストにおけるそれぞれの科目の点数、授業形式、教授言語、特別なニーズをもつ子どもの割合、教員の持つ資格・勤務年数の割合、親の学校参加な

どさまざまな情報がアラビア語で記載されている。しかし、これらの情報は学校単位で集計されて公表され、教育段階に限定した情報ではないため、資料として活用するには困難であった。

- ¹³ International Bureau of Education, 2013, *op.cit.*, pp.4-5.
- ¹⁴ これらの IB 認定校のうち、ロンドンインターナショナルスクール・カタール (International School of London Qatar) とカタールアカデミー (Qatar Academy) のみが、初等教育段階の IB である PYP と、前期中等教育段階の IB である MYP の課程を提供している。
- ¹⁵ Dominic J. Brewer, et al., 2007, *op.cit.*, pp.135-140.
- ¹⁶ “High School Requirements Qatar University”, Qatar University website, <http://www.qu.edu.qa/students/admission/undergraduate/high-school-applicants.php>(2014年2月12日最終アクセス).
- ¹⁷ “Academic Credit for AP, IB, and A-Levels”, Carnegie Mellon University Qatar website, <https://www.qatar.cmu.edu/academiccredit> や、“Undergraduate Admissions”, Virginia Commonwealth University in Qatar website, <http://www.qatar.vcu.edu/undergraduate-admissions> を参照(2014年2月11日最終アクセス).
- ¹⁸ Qatar Foundation (カタール財団) は、カタール政府が出資する非営利団体であり、1995年にハマド・ビン・ハリーフ・アル＝サーニーにより設立された。教育分野においては後述のカタールアカデミーを設けたほか、カタール・サイエンス&テクノロジー・パークを中心としたエデュケーションシティの運営も行なっている。
- ¹⁹ Bilingual Diploma とは「2つの言語 A1 の科目を取る」「言語 A1 の科目と言語 A2 の科目を取る」「グループまたはグループ 4 の科目を、言語 A1 で選択した科目以外の言語で取得する」「グループ 3 またはグループ 4 における課題論文を言語 A1 で選択した以外の言語で取得する」の中のいずれかの要件を満たした場合に授与される資格である。
- ²⁰ Qatar Academy, *Qatar Academy Annual Report 2011-2012*. 2012, p.18.
- ²¹ Qatar Academy, *Qatar Academy Annual Report 2012-2013*. 2013, p.20.
- ²² *Ibid.*, pp.27-28.
- ²³ “Admissions”, Qatar Academy website, <http://qataracademytest2.fuegodigital.com/admissions/admissions>(2014年2月11日最終アクセス).
- ²⁴ “Qatar Academy”, International Baccalaureate website, <https://www.ibo.org/school/001368/> と、*IB Diploma Programme May 2013 Examination Schedule*, Qatar Academy, 2013 を参照(2014年2月11日最終アクセス).
- ²⁵ “About Al Bayan Educational Complex for Girls”, Al Bayan Educational Complex for Girls website, <http://www.albayan.edu.qa/english/EducationalLevels/SecondarySchool/AboutUs.aspx>(2014年2月11日最終アクセス).

-
- ²⁶ “Vision and Mission”, Al Bayan Educational Complex for Girls website, <http://www.albayan.edu.qa/english/AboutUs/VisionMission.aspx>(2014年2月11日最終アクセス).
- ²⁷ “Academics”, Al Bayan Educational Complex for Girls website, <http://www.albayan.edu.qa/english/EducationalLevels/SecondarySchool/Curriculumandcourses.aspx>(2014年2月12日最終アクセス).
- ²⁸ “History of Qatar Leadership Academy”, Qatar Leadership Academy Website, http://qla.finyal.co/index.php?option=com_content&view=article&id=55&Itemid=61(2014年2月12日最終アクセス).
- ²⁹ “QLA Graduates”, Qatar Leadership Academy Website, http://qla.finyal.co/index.php?option=com_content&view=article&id=103&Itemid=63(2014年2月11日最終アクセス).
- ³⁰ “Admission”, Qatar Leadership Academy Website, http://qla.finyal.co/index.php?option=com_content&view=article&id=54&Itemid=29(2014年2月12日最終アクセス).
- ³¹ “QLA Vision, Mission and Objectives”, Qatar Leadership Academy Website, http://qla.finyal.co/index.php?option=com_content&view=article&id=56&Itemid=53(2014年2月12日最終アクセス).
- ³² “Programme of Studies”, Qatar Leadership Academy, Leadership Programme Website, http://qla.finyal.co/index.php?option=com_content&view=article&id=57&Itemid=120(2014年2月12日最終アクセス).
- ³³ 詳細は、Qatar Leadership Academy, *2010 – 2011 Qatar Leadership Academy Physical Training (PT) Tests and standards*, 2012 を参照。
- ³⁴ “Assessment”, Qatar Leadership Academy, Leadership Programme Website, http://qla.finyal.co/index.php?option=com_content&view=article&id=86&Itemid=121(2014年2月12日最終アクセス).

参考文献・ホームページ

- 杉本均, 中島悠介「トランスナショナル高等教育の展開－中東諸国を中心として－」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第58号, 2011年, 1－18頁。
- 掘抜功二『アラブ首長国連邦における国家運営と社会変容:「国民マイノリティ国家」の形成と発展』京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士学位論文, 2011年, 102-107,197頁。

Cathleen Stasz, et al. *Post-Secondary Education in Qatar*, RAND Corporation; Santa Monica, 2007.

Dominic J. Brewer, et al. *Education for a New Era, Design and Implementation of K-12 Education Reform in Qatar*, RAND Corporation; Santa Monica, 2007.

Gail L. Zellman, et al. *Implementation of the K-12 Education Reform in Qatar's Schools*, RAND Corporation; Santa Monica, 2009.

Gonzalez, G. et al., *Developing and Implementing the Qatar Student Assessment System, 2002-2006*, RAND Corporation; Santa Monica, 2009.

アル=バヤン女子教育コンプレックスウェブサイト, www.albayan.edu.qa/english/

カタールアカデミーウェブサイト, <http://www.qa.edu.qa/>

カタール財団ウェブサイト, <http://www.qf.org.qa/>

カタール最高教育評議会ウェブサイト, <http://www.sec.gov.qa/En/Pages/Home.aspx>

カタール大学ウェブサイト, www.qu.edu.qa/

カタールリーダーシップアカデミーウェブサイト, www.qla.edu.qa/

国際バカロレア機構ウェブサイトカタール国リスト, <http://www.ibo.org/school/search/index.cfm?country=QA>

英語・アラビア語資料

International Baccalaureate Organization, *Diploma Programme Statistical bulletin*. 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013.

International Bureau of Education, *World Data on education Qatar*. 2013.

Office of Public Affairs, Texas A&M University at Qatar, *Undergraduate Catalog Texas A&M UNIVERSITY at Qatar 2007-2008*. 2006.

Qatar Academy, *Qatar Academy Annual Report 2012-2013*. 2013.

Qatar Academy, *Qatar Academy Annual Report 2011-2012*. 2012.

Qatar Leadership Academy, *Qatar Leadership Academy Academic Program Guide*. 2013.

Qatar Leadership Academy, *Qatar Leadership Academy, International Baccalaureate Diploma Program Guide*. 2013.

Qatar Leadership Academy, *2010 - 2011 Qatar Leadership Academy Physical Training (PT) Tests and standards*. 2012.

Supreme Education Council, *Admission Policy for Independent Schools*. 2007.

アル=バヤン女子教育コンプレックス「アル=バヤン女子教育コンプレックス 2007 年次報告書」, 2009 年。

最高教育評議会教育局「カタール国の学校教育-2011/2012 年次報告書」, 2013 年。